

6月20日(月) コリント二 1:8~11 “祈りの援助”

1:8 兄弟たち、アジア州でわたしたちが被った苦難について、ぜひ知っていてほしい。わたしたちは耐えられないほどひどく圧迫されて、生きる望みさえ失ってしまいました。

1:9 わたしたちとしては死の宣告を受けた思いでした。それで、自分を頼りにすることなく、死者を復活させてくださる神を頼りにするようになりました。

1:10 神は、これほど大きな死の危険からわたしたちを救ってくださったし、また救ってくださることでしょう。これからも救ってくださるにちがいないと、わたしたちは神に希望をかけています。

1:11 あなたがたも祈りで援助してください。そうすれば、多くの人のお陰でわたしたちに与えられた恵みについて、多くの人々がわたしたちのために感謝をささげてくれるようになるのです。

パウロがたびたび生きる望みも失ったという宣教旅行中に受けた困難・迫害・中傷はどれほど激しいものだったのでしょうか。人は苦難が大きければ大きいほど神さまの助けを求めると神さまへの信頼度が大きくなります。そして信仰の友に祈られていること、そこに神さまが強く働いてくださるので私たちは力を得ることができます。絶対に私たちを見捨てない神さまの恵みに感謝し、共に祈り合う輪を広げていきましょう。

6月21日(火) ローマ 15:30~33 “わたしと一緒に祈ってください”

15:30 兄弟たち、わたしたちの主イエス・キリストによって、また、“霊”が与えてくださる愛によってお願いします。どうか、わたしのために、わたしと一緒に神に熱心に祈ってください、

15:31 わたしがユダヤにいる不信の者たちから守られ、エルサレムに対するわたしの奉仕が聖なる者たちに歓迎されるように、

15:32 こうして、神の御心によって喜びのうちにそちらへ行き、あなたがたのもとで憩うことができるように。

15:33 平和の源である神があなたがた一同と共におられるように、アーメン。

何度も危険な目に遭ったパウロにとって、恐れや不安を乗り越える道は神さまへの祈りでした。教会の交わりを大切に思うパウロのように、自分の心配事や不安を包み隠さずに「一緒に祈ってください」と素直に言えるとき、教会の交わりに招かれた私たちひとりひとりが神さまに喜ばれるものとなるのです。

6月22日(水) コリント二 2:12~13 “主によって門が開かれる”

2:12 わたしは、キリストの福音を伝えるためにトロアスに行ったとき、主によってわたしのために門が開かれていましたが、

2:13 兄弟テトスに会えなかったので、不安の心を抱いたまま人々に別れを告げて、マケドニア州に出発しました。

パウロはエフェソからトロアスへ行き、そこでコリント教会の状況を知らせてくれるはずのテトスに会えなかったことは不安と悩みのもととなりました。しかし、神さまのみことばのために門は開かれました。これは福音が広く伝えられていくことを意味しています。パウロは信仰によって押し出されマケドニアへと出発します。福音宣教の働きの手はすべては神さまのお導きの下にあることがわかります。

6月23日(木) コヘトの言葉 3:1~11 “何事にも時があり”

3:1 何事にも時があり 天の下の出来事にはすべて定められた時がある。

3:2 生まれる時、死ぬ時 植える時、植えたものを抜く時

3:3 殺す時、癒す時 破壊する時、建てる時

3:4 泣く時、笑う時 嘆く時、踊る時

3:5 石を放つ時、石を集める時 抱擁の時、抱擁を遠ざける時

3:6 求める時、失う時 保つ時、放つ時

3:7 裂く時、縫う時 黙する時、語る時

3:8 愛する時、憎む時 戦いの時、平和の時。

3:9 人が労苦してみたところで何になろう。

3:10 わたしは、神が人の子らにお与えになった務めを見極めた。

3:11 神はすべてを時宜にかなうように造り、また、永遠を思う心を人に与えられる。それでもなお、神のなさる業を始めから終わりまで見極めることは許されていない。

私たちの人生は喜びや幸せがいつも継続するのではなく、それと正反対のことも常に繰り返されることによって成り立っています。すべての命は神さまから出たものであり、神さまの大きなみ力がすべての時を支配されているのです。今日も明日も神さまの定めた時があり神さまのなさることすべてが時にかなって美しいのです。

6月24日（金）マタイ5：13～14 “地の塩、世の光”

5:13 「あなたがたは地の塩である。だが、塩に塩気がなくなれば、その塩は何によって塩味が付けられよう。もはや、何の役にも立たず、外に投げ捨てられ、人々に踏みつけられるだけである。

5:14 あなたがたは世の光である。山の上にある町は、隠れることができない。

イエスさまは「あなたがたは地の塩である」とおっしゃいました。塩が私たちの生活に欠かせないものであるように、私たちはこの世においてかけがえのない大切な存在であるということです。また「世の光である」ともおっしゃっています。私たち自身が光なのではありません。私たちの内にイエスさまが生きておられるのなら私たちは光を輝かすことができるのです。

6月25日（土）マタイ10：16～23 “蛇のように賢く、鳩のように素直に”

10:16 「わたしはあなたがたを遣わす。それは、狼の群れに羊を送り込むようなものだ。だから、蛇のように賢く、鳩のように素直になりなさい。

10:17 人々を警戒しなさい。あなたがたは地方法院に引き渡され、会堂で鞭打たれるからである。

10:18 また、わたしのために総督や王の前に引き出されて、彼らや異邦人に証しをすることになる。

10:19 引き渡されたときは、何をどう言おうかと心配してはならない。そのときには、言うべきことは教えられる。

10:20 実は、話すのはあなたがたではなく、あなたがたの中で語ってくださる、父の霊である。

10:21 兄弟は兄弟を、父は子を死に追いやり、子は親に反抗して殺すだろう。

10:22 また、わたしの名のために、あなたがたはすべての人に憎まれる。しかし、最後まで耐え忍ぶ者は救われる。

10:23 一つの町で迫害されたときは、他の町へ逃げて行きなさい。はっきり言うておく。あなたがたがイスラエルの町を回り終わらないうちに、人の子は来る。

神に敵対する者たちがいかに福音宣教の邪魔をしようとも、弟子たちが福音を語り宣べ伝えていけるようにイエスさまは「蛇のように賢く、鳩のように素直になりなさい」とおっしゃいます。この正反対の二つの要素をそのときどきにに応じて柔軟に使い分けていくことが求められています。捕らえられても心配せずに神さまにすべてお委ねすること、難しい状況でも生き抜いていく力は神さまから与えられます。

6月26日(日) コロサイ4:2~6 “祈りの輪の中で”

4:2 目を覚まして感謝を込め、ひたすら祈りなさい。

4:3 同時にわたしたちのためにも祈ってください。神が御言葉のために門を開いてくださり、わたしたちがキリストの秘められた計画を語る事ができるように。このために、わたしは牢につながれています。

4:4 わたしがしかるべく語って、この計画を明らかにできるように祈ってください。

4:5 時をよく使い、外部の人に対して賢くふるまいなさい。

4:6 いつも、塩で味付けされた快い言葉で語りなさい。そうすれば、一人一人にどう答えるべきかが分かるでしょう。

「汝らの言は常に恵を用い塩にて味つけよ」4:6 (文語訳) 塩で味付けすることは恵みによるものとわかります。恵みに満ちた言葉を語ることが、つまり主イエスの福音を宣べ伝えることが「地の塩」になることなのです。宣べ伝えることと併せて、まだ主を知らない人のために祈り、それぞれがお互いのために祈り、祈りの輪が広がる時教会はイエスさまに喜ばれる共同体として「世の光」を隅々まで届け暗闇も照らすことができるのです。